

平成 21 年 2 月 21 日
北関東フォーラム
於：シムックス

中斎塾 北関東フォーラム
平成 21 年 第 2 回講話

おはようございます。先ほど代表幹事さんに 2 月 21 日は山田方谷の誕生日と教えて戴きましたので、山田方谷に関する話をさせて戴こうと思います。又、本の読み方についても触れようと思っています。

では、恒例の質問から入ります。

嘘をつかない毎日を過ごしていると爽やかになります。嘘をつかないでいると恥をかく事がなくなってきますし、交渉事がスムーズに進むと、色々な方からお聞きするようになりました。それを踏まえてお聞きします。

「昨日一日、嘘をつかなかった方はどれくらいおられますか」

(・・・沢山手が挙がる)

もう一つお聞きします。昨日一日、朝起きてから寝るまでの間、何をしたか考えて下さい。

「夜寝る時に、昨日は良い一日だと思える方、手を挙げて下さい」

(・・・沢山手が挙がる)

「昨日一日、有難うと言い、有難うと言われた方は手を挙げて下さい」

(・・・沢山手が挙がる)

素晴らしいですね。皆さん清廉潔白で素晴らしい方ばかりのようです。段々聞き方を変えて、「先週 1 週間はどうか」、「先月はどうか」というように考えなければなりませんね。

試しにお聞きしましょう。

「前回のフォーラムから今日のフォーラムの間、1ヶ月の間で、嘘をつかなかったと自信を持っておられる方は、どれくらいでしょうか」

(・・・4 人手が挙がる)

有難うございます。

毎日寝る時に、<今日は嘘をつかなかったか>と思って毎日繰り返していますと、すっ

と素直に手が挙がります。ですから毎晩寝る時に、どうだったかと自問自答して寝る生活習慣をつけられれば良いと考えます。

もう一つお聞きします。

「今朝、朝ごはんを食べてこられた方はどれくらいおられますか」

今、手を挙げた方だけにお聞きします。

「美味しいと思って食べた方はどれくらいおられますか」

惰性で食事を食べた方は、だんだんメタボになるそうです。食事はやはりお腹が減って美味しいなと思って食べると、肉体的にも精神的にも良いと思います。

先ほど論語の素読を致しました。その中で一つ解説を致します。

今朝方、今日の素読の文章を読みながらテレビを見ていましたら、中川昭一さんのニュースが流れていました。ロシアの財務会談でも酩酊状態になっていたというニュースでした。本当に仕様が無いなと思いつつ聞きながら、今日の論語の中に書いてあるではないかと思いました。

季康子きこうし問う、民たみをして敬けい 忠ちゅう にして以て勸もつましめんすすには、之これを如何いかにせんしと。子曰く、
之これに臨のぞむに莊そうを以てすれば、則もつち敬すなわす。孝けい 慈こうなれば、則じち忠すなわなり。善ぜんを挙あげて不ふ
能のうを教おしうれば、則すなわち勸すすむと。

まさに中川さんの事が書いてあると思いました。「之に臨むに莊を以てすれば」という部分です。

解釈を致します。

季康子問う、民をして敬 忠にして以て勸ましめんには、之を如何にせん。・・・季康子が孔子に聞いた。「国民が上の人（政治家や高級官僚）を尊敬する、そして真心をもって仕事に励むようにする為にはどうしたらよいか。」

子曰く、之に臨むに莊を以てすれば、則ち敬す。・・・孔子が答えた。「まず最初に、上にいる人が厳粛で重々しい態度をもってすれば、国民は自ずから敬うものだ。見るからに軽薄で浮ついているような人には、付いて行くはずが無い」

中川さんがやっている態度を見て、国民があの人素晴らしいと付いて来るだろうか・・・と、ここを読んで下さい。ですから論語を、現実の出来事と比べ合わせて、現実の出来事を判断する材料としてお使い戴ければ良いでしょう。

孝 慈なれば、則ち忠なり。・・・親孝行でなければいけない。下の者に対しては、慈しみをもってあたりなさい。

皆さんは、自分は親孝行だと思いますか？ 親孝行だと自認している人が日本中に増えれば、良い国になるでしょう。親を子供が殺す、子供が親を殺す時代ですから、日本はどこかねじれて、狂ってしまったと感じます。ですから自分の家庭からと考えたら、是非、親孝行しているか考えて下さい。自分が親孝行をしないで、子供に親孝行を求めても無理です。自分自身が親孝行であれば子供にも言えるし、孫もそれを見て親孝行になってゆく。まず自分が親孝行でなければいけない。下の者に慈しみの気持ちをもって接すれば、国民も自然と親孝行になるし、上の人間を敬って、進んで良いことをするようになる。

善を挙げて不能を教うれば、則ち勤むと。・・・今、日本の状況で考えると、世界同時経済不況です。失業者が続出し赤字が進む、とんでもない状態になっています。アメリカはグリーンニューディール政策を進めて 400 万人の雇用を作ろうとし、日本ではグリーンニューディール政策を進めて 80 万人の雇用創出をしようとしています。こういう状況を考えて、今、政府がやっている第二次補正予算案などは本当に良いのか。又、かんぼの宿の問題についても、総務大臣が盛んに文句を付けて問題をえぐっています。これらは善を進める事になるのでしょうか。

良い事だと思って進めているように見える日本政府のいくつかの政策は、私は疑問がありますが、無駄な事・出来ない事でも国民が出来る様に出来る様にと国が進めていけば、国全体は自然と良くなるものだと思います。

さて、では日本の為政者・政府の中枢の人達を考えるとどうでしょうか。彼らは良い事を一所懸命やっているのでしょうか。能力のない人には、一所懸命手とり足とり教えているのでしょうか。そう考えると答えはNOで、日本政府のやっている事は、いけないと思います。

中斎塾フォーラムで学んでいる判断の三原則（本質・大局・歴史）で、この論語を判断してみましょう。

歴史を考える時に、私は 60 年サイクルで振り返ります。日本の 60 年前は終戦直後で、食べていけるかどうか、国民は塗炭の苦しみを味わっている時期です。その前の 60 年前は、西南戦争の後始末の頃です。明治という色がどっぴりと出ている時期です。

幕末から明治の頃に活躍した人に板倉勝静がいます。最後の老中と言われ、江戸幕府の最後の屋台骨だった人です。ただ板倉勝静は自分一人の判断では進められず、自分が信頼している山田方谷に何でも相談していました。江戸と山田方谷のいる備中松山ではかなり離れていますが、早馬で意見を求めていたそうです。

このように歴史を考えた時に、日本という国は捨てたものではないと感じます。過去に

これだけ素晴らしい人物がいたのだから、そのDNAは無くなっていないと感じます。今でも知恵を絞れば、これから良い対策が練れるのではないかと思います。

では、山田方谷の話を致します。

備中松山藩（今の岡山県）はその当時、今のお金で換算すると 20 億円くらいの収入でした。板倉勝静がお殿様になった時に、疲弊しきった備中松山藩を何とか再建したいという想いで、自分が勉強を教わった山田方谷を、今で言う大蔵大臣・内閣総理大臣に据えるのが一番良いと考えたわけです。そして当時の藩校の校長だった山田方谷を抜擢しました。その時、山田方谷は 45 歳でした。引退間際の年代で、教育者の最高の地位について悠々自適のような状況であったわけですが、一転した生活になりました。

山田方谷が引き受けて最初にした事は、徹底的に備中松山藩の収支を調べました。20 億の収入に対して、借金が 100 億ありました。普通なら倒産していかしくない状況です。年収 20 億の会社が 100 億の借金があると認識して、必死になって再建策を打ちました。そして 8 年間で 100 億円の借金を返し、同時に 100 億円の貯金もしました。つまり 200 億円の利益をひねり出したわけです。日本の国の歴史の中で、これだけ経済的な面で凄まじい実績をあげた人物であったとご理解下さい。

山田方谷はまず自分の収入を半分にし、自分の家の中にお目付けさんを入れて、家計を領民に対して公開しました。自分自身が崖っぷちに立って、国家運営の指揮をとったわけです。

財政面だけではありません。その頃、武士は百姓の真似はできませんから、食料がないわけです。そこで武士に土地を与えて開墾させて、そこで出来た作物は自分のものにさせて収入の道を図りました。結果として、新田開発が出来ました。

鉄が採れましたから鋤や鍬を大增産をして、船に乗せて江戸に産地直送をしました。そして商人には利益をどんどん生むような仕組みを作って、実際に売上げをどんどん増やしました。

仕事のない人には、舟が通りやすいように川の底をさらう公共事業で仕事を生み出しました。それによって仕事のない人にどんどん仕事を出して、現金が得られるようにしました。

凄まじい借金については、大阪の金主に頼んで借金の繰り延べをして貰いました。その時に、担保でとっていた米を全部返してもらって、松山藩内に 40 箇所の義倉所を作りました。領民に対しては、飢饉の時にはこの蔵をあけて米を配ると約束して領民を安心させ

ました。そして現実にこれをやっています。

このような対策を進めて、わずか8年間の間で見ると国が豊かになりました。

又、外敵が攻めてきた場合に備えて、里正隊を作りました。農民を集めて洋式鉄砲を撃てるように訓練しました。これが高杉晋作の奇兵隊のモデルになりました。

こういった方谷の対策によって、備中松山藩はどんどん栄えてきました。備中松山藩が成功した経済の立て直しを、是非日本の国のために使わせてもらいたいという事で、板倉勝静は老中に迎えられたわけです。ですからもし備中松山藩が朝敵にならなければ、凄まじい権力を握った事だろうと思っています。ただそういう山田方谷の存在が、僅か百数十年で消えてしまったのは残念だと思っています。

山田方谷の台詞の中で私が一番印象的なのは、「重税は国を滅ぼす」という言葉です。税金を細かな所までかけるような国は滅びると残しています。当時の松山藩の課税は、立ち木一本にまで税金をかけていたのですから、領民達はどうにもならないくらい重税に喘いでいました。

翻って今の日本の国を考えると、同じです。日本の個人の所得税・住民税は併せて50%ですが、これは世界で何番目くらいかご存知ですか？ 正解は4番目です。世界最高税率は59%だそうですが、そういう国々は高福祉・高負担なのです。日本は決して高福祉とは思えません。消費税を上げるなど、とんでもありません。税金の使い方をよく考えてもらえば、日本はこうは悪くならなかったらと思います。今後の税金の動きを見ていけば、日本はどんどん潰れる方向に進んでいると思わざるを得ません。こうやって税金がどんどん膨らんでいくと同時に、官僚と政治家が癒着して、それが酷くなればなるほど早く潰れると思っています。私は去年・一昨年と、国家破綻をした国々を見て回った結果、自分の体験談でそう実感しています。ですから山田方谷の内容を調べれば調べるほど、今の日本は危ない所に来ていると感じます。

山田方谷の哲学は、「事の外に立ち、事の内に屈せず」です。何か重大な問題があっ

て解決を迫られる時には、その問題から一歩離れて客観的に見る。そうしないと、その問題の中に飲み込まれてしまって、結局は自滅する事になります。必ず問題から離れて、客観的に自分のやっている事、考えている事を見直しをしようという事です。

山田方谷は73歳で亡くなりましたが、その一生の間で後生の人間に告げるべき事を沢山残してくれたと思いますので、どうぞお時間がありましたらお調べになるとよろしいでしょう。

基本哲学 「知足」

中斎塾フォーラムの基本哲学は知足です。足るを知る・・・良い言葉だと思います。

先日「知足庵」という建物を造ったお坊さんに会いました。足るを知るということの分かり易い説明の仕方はありませんかとお聞きしましたが、なかなか答えが出ませんでした。私が「腹七分ですね」と申し上げましたら、納得して戴きました。

ご飯を食べた時に、もうちょっと食べたいと思うところでやめておく。そして 30 分経った頃には満足感が出てくる。これは腹八分目です。腹七分は 10 分 20 分経って、やっぱり足りないと思うのが腹七分です。常にちょっと少ないなという状況で生きていくと、人間は健康で長生きできるという DNA が綿々と繋がっているようですから、お勧めします。腹七分という食事の仕方が、そのまま知足の考え方に直結しますので、足るを知るとは、腹七分だと思って下さい。

私の好きな言葉

私は論語の中で、「利によりて行なえば、怨み多し」という言葉を選択しました。この言葉は良いなと思って 40 年くらい使っていますから、もう血肉になりました。皆様も自分で好きな言葉を論語の中から見つけられると良いと思います。

先日、ハドソン川に飛行機が不時着した事故がありました。機長の判断で、奇跡的に全員が無事でした。155 人の乗客の命を救ったサレンバーガー機長の台詞が素晴らしいと思いました。「これまでの私の人生は、この 3 分 30 秒を乗り切る為の準備だったように思います。」という言葉です。アメリカで機長多しといえども、これだけの台詞を言える人は滅多にいないと思います。飛び立ってすぐにエンジンに鳥が吸い込まれて、不時着するしかない状況で、人家の密集している所で何とか大惨事を免れようとハドソン川に下りたわけです。それが 3 分 30 秒だった。その 3 分 30 秒間に、何を考えてどういう動作をしたのか非常に気になりますが、下りた後のこの台詞は本当に素晴らしいと感じました。

自分がやっている事が使命・天命だと思えるものであれば、素晴らしい。そうすると、「私はこれをする為に生まれてきたのだ」と言えます。それが言えれば凄いですね。

心に残る言葉

本日の心に残る言葉は、丸山敏雄さんという倫理の創始者の言葉です。

話をする時には、
具体的に話せ
準備をよくせよ
内容を十分研究しておけ

『丸山敏雄伝』倫理研究所監修 丸山敏秋編 近代出版社

先日、文京区倫理法人会から講演を頼まれました。お話を戴いた時に、何を話そうかと考えて、「倫理の創始者である丸山敏雄先生についてはどうですか」と軽く言ってしまったのです。引き受けてから、自宅にある丸山敏雄先生の書かれた本や丸山敏雄先生に関する本を 15、6 冊くらいを読み直しました。

丸山敏雄という方は凄まじい生きざまをした人だという記憶がありましたが、改めてそう感じました。拷問に耐えて自分の主張を貫き通しつつ、拷問の中から悟りを得たのです。「丸山敏雄先生に魅入られて」というテーマを決めてから、まず御本人が書いた本 3 冊を何度も何度も読み直ししました。そして本に書かれている内容が、だいたい自分の腹の中に腑に落ちて来ました。それから息子さんの書いた本を読みました。周辺の方たちの書かれたものを読んで見ると、その傍証が出来ます。段々とその人柄が浮かんできます。

例えば、奥様が書かれたものをみると、丸山敏雄さんはお豆腐が好きだったそうです。しかも必ずお湯を通したものしか食べなかった。鰯が好きで、黒焦げに焼いたものを、バリバリと骨まで食べ、家族にも真っ黒に焼いた鰯を食べるように強制したので困ったと書かれています。

又、亡くなる前に息子さんとその友人に、「お前達は幸せだね。私は今の真理を悟るのに 40 年 50 年かかってやっと分かった。お前達はそれを教わる事が出来る」という台詞を言われたそうです。

今、お話しているのは、本の読み方です。

本を読んでいく時に本人の骨格となるものの考え方・思想・業績を、本人の書いた言葉で自分の身体の中に入れると、家族やお弟子さんといった回りの人達が書いたものを照らし合わせることで、立体的にその人物が自分の中に形付けられます。そこまで来たら、今度はもう一度見直しをします。見直しして、氣になった事を書き出します。それを又、読み直してみると、最後に 1 枚のレジメが出来ます。

今回の講演については、2 ヶ月くらいかけて本の読み直し 傍証の固め レジメの前提になる資料の抽出 1 枚のレジメ、という具合に進めました。そうすると大体頭の中に入ります。資料をあまり見ないで皆様にお話できる様になるのに、それくらい時間をかけま

した。そして大体この話については少なくとも半日は話が出るだけの材料を仕入れて、40分話をするというようにしました。

ですから本を読む時には、1冊読んで、面白かったというのでは、あまり役に立ちません。

今回丸山敏雄という方について調べるにあたって、お師匠さんは誰か気になりました。「東の西田、西の西」と言われる二人の哲学者がいましたが、煎じ詰めると西晋一郎です。西田幾多郎からは間接的な影響を受けていたと感じます。

ちなみに西晋一郎と西田幾多郎、二人の共通のお師匠さんは北条時敬です。更に陽明学を信奉していた織田勝馬という校長先生の所に丸山敏雄先生は入学しましたから、陽明学の影響もかなり受けていると思います。後半に書いている文章をみると、「知行合一」や「事上磨練」といった陽明学の中の言葉をそのまま実践しているような記述にかなりぶつかりました。という事で親近感もかなり湧きました。

一人の人間を調べる、事跡や人物を調べて、わが友人・或いは師匠という形にもっていく為には、どのように本や資料をを読めば良いか、私の実例を申しました。

最後に、丸山敏雄という方が、現在世の中に広がっている倫理を発想し広げて行った時間は6年間でした。59歳で亡くなられましたが、54歳から倫理の活動に入って僅か6年間で、倫理というものの考え方を思いついて、追求し活動し、膨大な著作を書かれました。拷問を受けてその中で悟りを開いたという部分は、かつての偉人英雄と似た所がかなりあると思いました。

本日のテーマ 判断の三原則

中斎塾フォーラムの中で自然と覚えて戴く言葉は、判断の三原則です。自分が困った時、どうしたらよいか判断に悩んだ時に、判断の三原則<本質・大局・歴史>で考えます。

判断の三原則を考えるのに、先ほどご紹介した丸山敏雄さんの言葉が、人様の前で話をする時に必要な項目だと思いますので、これについてももう少しお話しします。

人様の前で話をする場合、準備する時間があれば、この3つは役に立ちます。

具体的に話せ

これは体験談がよいですね。特に失敗した時の話が良い。自分が成功した時の話をいくらしても、人は面白くもなんとも無い。自分が失敗した話だと、人は聞いてくれます。

準備をよくせよ

仮に1時間話をするのであれば、3時間ぶっ通しで話ができるくらいの材料は用意しておく必要があります。話しているうちに頭が真っ白になって、何を喋っているか分からなくなる事は結構あるはずです。1時間の話をするのに、1時間分の準備だけだと話が出来ません。せめて3倍、話をするだけの準備がいます。

内容を十分研究しておけ

自分が長年追いかけているテーマがあったら、そのテーマに触れるように話を構成すると良いでしょう。内容を十分に研究するという事は、そう簡単に出来るものではありません。自分がずっと調べているテーマに繋げる必要があると思います。

たっぷり時間があって準備できる時には、以上の3つが役に立ちます。

判断の三原則はゆっくり時間をおく場合もあるし、瞬間的に考える場合もあります。本質論でものを考えるのか、大局論で見るのか、歴史的に調べるのか……。歴史的に調べるには、時間がかかりますから、本質論と大局論のものの見方を自らに持っておくと、非常に役立ちます。その場合必要なものは、師匠の存在です。あの先生だったらこの件に関してどう考えて、どう結論を出すのかという思考過程を持てば、意外と判断が楽に出来ます。

私自身は木内信胤先生が師匠です。木内先生だったらどう考えられるだろうか、何を言われるだろうかという事をいつも考えながら生きていますので、いつも木内信胤先生が傍におられるという感じをもっております。生きている師匠であったり、亡くなった後の師匠であったり、そして本の中から生み出す師匠でも結構だと思えます。皆さんも師匠を持たれると良いと思います。

人が人としてものになってゆく、人物になってゆくには、若い頃どういう体験をしたか、年をいってからも天地がひっくり返るような体験をしたか……。そういう体験によって人間はかなり変わると思っています。木内孝さんに言わせると、「原体験を持っているかないか」という台詞になります。私は自分で思う原体験は、阿頼耶識という考え方を根底に持っています。「念ずれば花開く」という事です。必死になって念じていれば、必ず事は成就すると信じています。

私は心の貯金箱というものの考え方をしております。心の貯金箱の体験談を一つ申し上げます。

大学に入りたて1年の時に、先輩が台湾と香港を回って帰って来ました。その土産話を聞いて、私も行きたいと思いました。聞いている人は50人くらいおりましたが、本当に

行こうと思った人は同じ行動をとりました。皆、銀行に行って貯金を始めました。私は話を聞いた後すぐに、銀行へとんで行きました。貧乏学生でしたから、ポケットの中から出せたお金は1円でしたので、その1円玉を貯金しました。通帳を貰いましたから、翌日2円貯金しました。その次の日3円貯金しました。だんだん通帳の印字が貯まっていくと、気分がよくなって、毎日お金を入金しました。通帳にお金が貯まると同じように、心の中の貯金箱も行きたいという気持ちが貯まっていきました。そしてその気持ちが高ぶってはじけました。一瀉千里で、東南アジア十数カ国を回ってきました。それを私は心の貯金箱という言い方をしています。

何かをしたいと思ったら、その日のうちに行動する事です。そしてその行動は必ず記録をとる事です。その記録は第三者が入ると、更に良いと思います。私は心の貯金箱を実際に体験してみて感じました。

この東南アジアの一人旅によって、心の中に原体験が生まれて、それが今、現在の活動に直結していますので、ご参考までに申し上げました。

以上で本日の北関東フォーラムは終了に致します。有難うございました。